

1. 序論

1-1.研究背景と目的

1956年に都市公園法が制定されて以来、行政による都市公園の量的な整備が進められた。都市公園の中で最も身近な公園として整備された街区公園は、使い方の主目的を児童の遊園として遊具の設置が義務づけられた。また公園の整備は行政に一任され、管理は積極的な利活用や運営を柔軟に取り入れるような仕組みは少なく課題となっている。縮減時代を迎え、利用されなくなっている公園の増加や、利用者層や使われ方の変化を踏まえ、街区公園の今後のあり方を再考する必要がある。また、豊島区では消滅可能性都市に選定されたことを契機に、女性や子育て層に向けた街づくりとして、まちなかの公園のあり方再編も検討されており、街区公園や児童遊園を対象とした「中小規模公園活用プロジェクト」(以降中小規模公園活用PJ)が推進されている。これらを背景として、本研究では豊島区「中小規模公園活用PJ」を対象として、日常の公園利用実態、参加イベントへの評価、将来の公園利用へのニーズ、運営手法について明らかにし、今後の街区公園のあり方の示唆を得ることを目的とする。

1-2.既往研究の整理からみる本研究の位置づけ

岩崎ら(2016)¹⁾も街区公園の利活用に関する研究を行っているが、街区公園の在り方や公園運営について焦点を当てていない。本研究では子育て層とその他の層に分け新しい使い方を分析すると共に、住民関与による公園運営の可能性を検討することで、街区公園の今後の役割を明らかにする。

1-3.研究方法・構成

2章では、豊島区「中小規模公園活用PJ」の活動概要についてWeb調査と豊島区公園緑地課へのヒアリング調査から整理した。3章では、調査公園を4公園に選定し、内2公園を主な調査対象としてイベント実施時に①日常の利用実態、②参加イベントへの評価、③将来の公園利用へのニーズに関するアンケート

調査を行った(表1)。その他2公園で得た公園ニーズに対する意見も参考にしつつ、今度の街区公園の使い方について子育て層とその他の層に分けて明らかにすることで、児童の遊園と多世代コミュニティとしての可能性の両面から明らかにする。4章では、公園緑地課へのヒアリング調査を通して現在の公園運営の取り組み実態を明らかにすると共に、西巢鴨二丁目公園の運営に関わる地域住民へのヒアリング調査を通して住民関与の可能性を明らかにする。5章では、街区公園の今後の役割や運営の目指すべき方向性の在り方を考察する。

表1 アンケート調査方法

配布方法	中小規模公園活用PJ参加者へ手渡し
実施場所 (実施日時)	A. 雑司が谷公園(2022/11/27) B. 駒込七丁目第二児童遊園(2022/11/20)
イベント概要 (対象者)	A. やさしいマルシェ(多世代) B. PARKトラック(子育て世代)
回収数	A. 42件 / B. 12件 (回収率: 100%)

2. 中小規模公園活用PJの概要と活動実態

2-1.公園政策と中小規模公園活用PJの位置づけ

豊島区は2014年に消滅可能性都市として選定されたことを契機に、自治体SDGsモデル事業として区内164か所の公園を対象に「公園を核としたまちづくり」を実施している。中小規模公園活用PJは、池袋駅周辺の4公園とは異なるビジョンを持ち公園活用を推進している(表2)。

表2 中小規模公園活用PJ対象公園の種別

	公園種別	公園数
		計 160か所
		計 85か所
区立公園	街区公園	55か所
	近隣公園	2か所
	都市緑地	8か所
	緑道	2か所
	緑地	15か所
	広場	3か所
児童遊園(仮児童遊園を含む)		計 72か所
その他		計 3か所

2-2.中小規模公園活用PJの背景と目的

遊びの多様化や子育てニーズの変化、地域コミュニティの希薄化などの地域ニーズの変化と、小規模公園

の多くが十分に活用されていないと共に禁止事項が多く利活用されづらくなっているという課題等の背景を踏まえ、公園を地域に開き、コミュニティの場を育てることで、愛着のある暮らしを地域住民と共につくることを目的に取り組まれている。また、近隣住民の理解を得ること、地域のやりたいことを第一に考えた取り組みが行われており、新しく設備を整備するのではなく今あるものをできる限り活用し、ソフト面での利活用を行うことに重点を置いている。

2-3. 中小規模公園活用 P J の活動内容

本プロジェクトは2017年に始動し、㈱コトラボと協働で区内164の公園を対象として公園調査を行った。その後公園実態調査データの評価や周辺環境、地域住民の意見等考慮しながらモデル公園を選定し、㈱良品企画との協働でベンチやウッドデッキ等のハード整備や、おもちゃ倉庫^{*1}やプランター等の取り外し可能なハード整備、地域団体や地域住民、その他民間活力を導入しながらPARKTRUCK^{*2}の運行や井戸端会議^{*3}等ソフト的取り組みを行う等、公園毎に活用の実践と検証を繰り返すことでより使いやすく、過ごしやすい公園づくりを模索している。現在26公園で取り組みが行われている。

3. 街区公園の新しい使い方の可能性に関する分析

3-1. 調査公園の概要と調査概要

調査公園は、公園利活用のイベント参加者が公園利用への意識が高いと考え、イベント実施公園の4公園を選定した。雑司が谷公園(以降公園A)、駒込七丁目第2児童遊園(以降公園B)ではアンケート調査を実施し、(1)日常の利用実態(2)参加イベントへの評価(3)将来の公園利用へのニーズを明らかにした。西巢鴨二丁目公園ではハード整備やイベント後の変化について、上池袋中央公園では将来への公園利用ニーズへの意見を得たため参考としつつ、主に公園A、公園Bで得た調査データを用いて公園の新しい使い方について子育て層とその他の層に分けて分析を行う(表3)。

3-2. 公園Aの利用実態と新しい使い方の分析

(1)日常の利用実態：中学生~10代の利用は見られず、子育て層では、未就学児又は小学生とその親の「①遊び」利用と、その他の層では、「①遊び」以外に、「②自然との触れ合い」、「③運動」、「⑥休憩」利用が主だった。全世代で、公園の「①家から近い」、「④自然を

感じる」、「⑤安全性」、「⑥ゆっくりできる」、「⑦清潔感」を評価する利用者が多かった。

(2)参加イベントへの評価：子育て層とその他の層に共通して、「①普段と違う遊びや体験ができること」「⑤気軽さ」に評価が高かった。またその他の層はイベントの「②活気」、「③同世代交流、④多世代交流」への評価が高いこともわかった。

(3)将来の公園利用へのニーズ：「①小さい子どもを安心して遊ばせられること」「③大人も楽しめる・くつろげること」「⑧四季等自然を感じられること」へのニーズが高く、子どもの遊び場としてのニーズと子育て世代の親、その他の世代の居場所へのニーズを把握した、また、その他の層は設備へのニーズにおいて「②照明」、「⑤健康器具」、「⑩仕事や勉強ができる設備」へのニーズも高かったことから、健康促進や個人利用のニーズもあることが分かった。

3-3. 公園Bの利用実態と新しい使い方分析

(1)日常の利用実態：イベントが子育て層対象でありその他の層の意見はあまり得られなかった。

未就学児と小学生の遊び利用が主な利用であり、公園の「⑤安全性」、「⑦清潔感」への評価が高かった。

(2)参加イベントへの評価：子育て層は「①普段と違う遊びや体験ができる」への評価が高くPARKTRUCKは、特に未就学児等小さな子どもを安全に遊ばせたいというニーズに対応していることがわかった。

(3)将来の公園利用へのニーズ：子育て層の「①小さな子どもを安心して遊ばせる」、「③大人が楽しめる・くつろげる」、「⑧自然を感じる」へのニーズが高く、子どもの遊び場、その親の居場所のニーズを把握した。以上より、2公園では未就学児と小学生の遊具の遊園目的が主であることがわかり、今後は特に未就学児でも安心して遊ばせられる遊具や安全で清潔な環境整備が求められていることが分かった。親世代も一緒に楽しめる・くつろげることへのニーズも把握した。また、イベントには気軽さや普段とは異なる体験が求められており、今後は公園の資源を用いた幅広い世代が楽しめるイベントや日差しを避けられる屋根、休憩スペースの拡大等の取り組みが必要と思われる。

その他の層は子育て層に比べて活気や交流を求めている、健康促進や屋外ワーク等個人利用の需要もあることが分かった。今後は交流ができるイベントや仕事・

勉強ができる設備の整備により、多世代がより多目的で利用できる公園になると考える。

利用実態やニーズは公園によって共通する点もあるが地域性や利用者によってニーズは異なるため、柔軟な運営手法が必要と考える。中小規模公園活用PJは公園ごとに運営スキームを模索しており、地域住民が主体となった公園運営を目指している点も特徴的である

と捉え、以降運営の在り方についてを明らかにする。

4. 今後の公園運営の在り方に関する分析

4-1.現在の運営主体と実態

公園緑地課へのヒアリング調査から得た情報を基に整理したところ、現在の公園運営のタイプには大きく分けて①地域育成タイプと②行政主催タイプの2種類あることが明らかになった。①は公園運営の担い手に

表3 調査公園概要と調査内容

公園概要	公園名	公園A：雑司が谷公園	公園B：駒込七丁目第2児童遊園	
	種別/面積	街区公園/8653.75㎡	児童遊園/518.70㎡	
開設年	1986年(改修2020年)	1986年		
ソフト的取り組み	○(PARKマルシェ)	○(PARKTRUCK)		
取り外し可ハード	○(プランター、おもちゃ倉庫、活用倉庫)	○(インクルーシブ遊具)		
ハード整備	×	×		
平面図/周辺図				
調査概要	イベント やさしいマルシェ	PARKTRUCK		
回収数	子育て層：31件、多世代：12件	子育て層：10件、多世代：1件		
調査項目	I. 日常利用実態	1) 属性		
		2) 利用目的		
		3) 良い点		
	II. プロジェクトへの評価	1) 利用目的		
		2) 設備へのニーズ		
		3) 将来への公園利用ニーズ		

なりうる主体がある公園において、行政がサポートしながら地域主催で運営していく公園である。また現在担い手がない公園でも、将来的には①タイプを理想とし、担い手が見つかるまでの間は民間活力等を導入しながら運営している。①タイプである雑司が谷公園のイベントには、高齢者の方が地域の繋がりで多く訪れていた点や、西巣鴨二丁目公園では行政が整備したウッドデッキのメンテナンスを住民主催で実施予定であり、公園を通じてコミュニティが出来ていた。

これらの実態を踏まえ、①は地域のやりたいことをより直接的に実現し、その後も運営を持続させていくことでコミュニティの場になりうる運営手法であり、今後公園毎にニーズに合わせた柔軟な公園運営を目指すために重要であると考えます。

公園イベント	運営関係図	運営
雑司が谷公園/ やさしいマルシェ		①
駒込七丁目第 2 児童遊園 /PARKTRUCK		②
西巣鴨二丁目 公園/井戸端会 議		①
上池袋中央公 園/としまパー クeday		②

図 2. 公園のイベント運営関係図

4-2.住民関与の運営手法の課題とあり方

住民の公園運営への関与について、西巣鴨二丁目公園で運営の担い手として活動されている地域住民にヒアリング調査を行い、住民関与での公園運営の課題やあり方を明らかにする。課題として、現在の地域住民のコミュニティが希薄であり起動の時点でコミュニティを生み出すことや公園利用への意見を発信することへのハードルが高い点、コミュニティを持続させることが難しい点、行政側の人事異動による現状の活動への影響等が明らかになった。今後行政に頼らず持続的に活動していくことができるように、まずは地域住民が気軽に参加できる場や意見を発信できる機会がある公園が作っていくことが必要であると考えます。

5. 結論

5-1.街区公園の新しい使い方

街区公園では児童の遊園の実態やニーズがあり、安全性配慮へのニーズや子育て世代の大人の居場所へのニーズも高いことを把握した(表 3)。中小規模公園活用 PJ の取り組みをきっかけに日常の公園利用頻度の増加や、公園や地域への安心感・愛着が高まったという声もあり、子育て層の公園利用促進に効果をもたらしていると考えられる。またその他の層の利用実態は公園毎に異なるが、交流や活気へのニーズを確認でき、健康促進や個人利用のニーズも得た。イベントを交流の場として利用している方も多く、今後の公園運営において「交流」を促進する仕組みづくりが求められていると考える。今後の街区公園は、児童の遊園の役割だけでなく、子育て世代の大人の居場所であり、その他の層のコミュニティの場として利活用されていく必要があると考える。

5-2.運営手法

4章では、地域で公園を運営することによりやりたいことの実現や地域コミュニティの拡大に繋がることが明らかになり、新しい使い方を実現するために公園運営に地域住民が関与することで、より地域ニーズを捉え、多世代が利用しやすい公園づくりに繋がる可能性があると考えます。一方で、地域住民が公園運営に関わることへのハードルの高さや、初動のコミュニティを生み出すこと、コミュニティを持続させることへの難しさも明らかになった。今後公園をより使われる場にしていくためには、地域性や利用者の特性やニーズを捉えながらソフト的取り組みとハード整備の両面を組み合わせ活用していく必要があり、そのためにも公園でやりたいことや欲しい設備を地域や行政に気軽に発信できる場を定期的に設けることや、公園運営の担い手となるコミュニティを生み出すような取り組みが必要と考える。

[注釈]

- *1.公園が保育園の園庭として使われていることを踏まえて整備されたおもちゃが収納された倉庫。
- *2.公園を楽しく過ごすやすくするために様々なものを積んだトラック。飲み物の販売や絵本やおもちゃの貸出を実施している。
- *3.公園でやりたいことや地域の課題について話しあうラフな場。

[参考文献]

1. 豊島区中小規模公園活用プロジェクト豊島区公式ホームページ
2. 消滅可能性都市の指摘からのまちづくりの発展の姿

[既往研究]

1. 岩崎貴也, 小泉秀樹, 後藤智香子(2016)「公民連携によるコミュニティガーデンを用いた街区公園の利活用に関する研究 - 東京都江東区の事例を対象として -」都市計画論文集 vol51